

黄偉哲市長は、高齢者に優しい街をつくる、南市初の多角的な介護リソースセンターOTプロジェクトに署名

台南市政府は、衛生福利部からの資金提供を積極的に求めし、衛生福利部新営病院北門の分院を市初の『多角的な介護リソースセンター』に転換した。今日(7日)黄偉哲市長、衛生福利部新営病院院長の陳明智、社会局長の陳栄枝、労働局長の蘇金安、学甲区長の張明宝、七股区長の顔文穂、軍区長の洪聡發、北門区代表及び【台湾元気村長照社団法人】、【台湾サンガ有限公司】、【仁寶コンピュータ工業株式会社】、【社団法人台湾移動照護共生協会】など各領域の代表が共見し、「衛生福利部新営病院北門分院は多角的な介護リソースセンターを民間に委託経営管理(OT)案の調印式」を完成した。

黄偉哲市長は、台南の全域に介護サービスを広めるため、大北門区の介護資源のニーズを考慮し、新営病院の補助金申請及び建物の改修と修繕プロジェクトを構築するには積極的に支援したと述べた。市の最初の多角的な介護老人ホーム資源センターを造り、高齢者に包括的なサービスを提供します。市長からセンターは将来、北門及びその周辺地域の人々の幸福を築くために雇用機会を提供し、地域住民を優先的に採用することを強調した。

社会局によると、多角的な介護リソースセンターは、促参法に従って質の高い民間会社の運営・管理を委託します。台湾元気村長照社団法人は、今後、日本の介護機器、クラウド・インテリジェンス・システム、総合医療、介護、住民情報を導入し、台湾・日本の介護人材の間の国境を越えた交流を促進し、介護サービスを新しい時代も齎す。

北門多角的な介護資源センターは、1階を居宅医療資源センター、中央キッチン、補助展示センター及び一般デイケアセンターとして利用します。2階は、認知症デイケアセンター及び認知症グループホームとして利用する予定です。3、4階は、介護施設であり、ユニットケア方式を通じて、暖かい空間を提供し、ケアと管理の品質を維持するのに役立ちます。収容人数については、一般デイケアセンターは30名、認知症デイケアセンターは30名、認知症グループホームは2ユニット計18名、長期入居4ユニット計85名の収容ができる。将来的には、地域密着型や住宅型サービスなどの「介護2.0サービス項目」やおよび介護相談やリソースリンクなどの関連サービスを提供する。

黄偉哲市長は、本府と本市の各部立病院が、北門、六甲、新市、柳營、安定、玉井地区に785床の公的住宅介護施設を積極的に配備していることを述べました。山上、永康、安南、白河、仁徳、東山、新営、学甲、官田、南区の民間私立介護法人は、1,617床であり、官民布建計2,402床を予定しており、共同して本市の介護資源を注ぐ。

黄偉哲市長はさらに、現在の一國中学校区の1日介護の完成率は84%であり、6つの都の一位であると述べました。今年は「一國中学校区の1日介護」の目標が達成されると予想されます。今後、市政府は、台南市民の介護サービスの利用しやすさを向上させるために、サービスニーズに応じたサービス能力の拡大を継続していくと述べました。また、施設の防疫を強化するため、市管轄の合計139施設の職員、住民、及び密接な接触者に対して、簡易検査キットを配布し、台南、白河、及び佳里榮の家の職員に1人あたり2回分の合計68,706回、施設職員と住民に配布した。市長は、新型コロナウイルスの流行の中で、市政府は施設の流行防止を強化し、施設の利用者さんが安心して安全的な専門的ケアを受けることができるようにケアの質を考慮し続けていると述べた。

集合写真



黃偉哲市長ご挨拶



調印式



契約完了

